

青い波北陽台

令和5年3月24日 発行
長崎県立長崎北陽台高等学校
西彼杵郡長与町高田郷3672
TEL 095-883-6844
FAX 095-883-0776
発行責任者 山口 千樹

「幸せであるために」

教頭 濱栗 啓吾

3月1日に執り行われた卒業式において、山口校長はその式辞の中で「分断」への懸念と「融合」への期待に言及された。

人類はその長い歴史において「分断」を数多く経験してきた。第二次世界大戦後に限っては、インド・パキスタンの分離独立やドイツの東西分断、さらにベトナムや朝鮮の南北分断などが挙げられる。現代に目を向けると、アメリカ社会における政治的分断や日本社会における経済的格差の広がりやひきおこしつつある経済的分断などがある。また、ロシアによるウクライナ侵攻は、コロナ禍も相まってグローバル化による経済発展に打撃を与えながら、資本主義と社会主義の対立を深め、冷戦時のような「分断」への懸念が拭えない。

こういった世界情勢の中で「融合」へ向けて私たちにできることは何だろうか。その最優先事項として、山口校長は個人が幸せになることを挙げられた。「幸せ」は英語では、“happiness”や“well-being”などに相当する。前者は14世紀に誕生し、“happen”と語源を共にしていることから、「偶然の幸運」が原義である。一方、後者は17世紀に生まれ、「満足いく、健康な存在であること」としての幸福を意味する。このことを踏まえると、少なくともイギリスにおいて、偶然の産物として与えられていた幸福が、その300年の間に自らの意思で少しは追求できるものになっていったのかもしれない（憶測にすぎませんが）。式辞で言及された「幸福」は後者を指しており、一人ひとりの満たされた存在の積み重ねが人類の幸福へつながっていく、つまり「融合」を図ることになると述べられた。

私たちは様々なバックグラウンド、文化、言語、信条を持っている人たちと社会の中でともに暮らしている。グローバル化の進展に伴い今後ますます多様な社会になっていく。しかし、そうした違いがさらなる憎しみを生み、争いの引き金になるようではこれまでの歴史と同じような轍を踏むであろうことは想像に難くない。イギリスの小説家 E.M.Forster(1879-1970)は、ヨーロッパにおいて第二次世界大戦が勃発する約1年前、ナチスドイツがユダヤ人への迫害を行いながらその領土を拡大していく最中の1938年、あるエッセイを発表した。それは“What I believe”（『私の信条』）というタイトルで、その中で宗教的・民族的迫害によって引き裂かれ、無知が支配している世の中であって軽んじるべきではないものを次のように述べている：

Tolerance, good temper and sympathy — they are what matter really, and if the human race is not to collapse they must come to the front before long.

「寛容であること、善良さそして思いやり—こういうものこそ大切なものであって、人類が滅亡しないのであればまもなく前面に出てくるに違いない。」言い換えると、人類、ひいては個人が“well-being”を獲得するためには、人類に備わっているはずの3つの資質が発揮されなければならないということだ。では、その資質を発揮するにはどうしたらいいのか。

想像力を豊かにすること。そうするために、学びを止めないこと。

山口校長は、皆さんならこの分断の危機を乗り越えることができるとおっしゃった。

在校生諸君、長崎北陽台高校に集う職員生徒とともにこれからも学び続けてください。

～2月28日（月）各種表彰・卒業記念品贈呈式・花束贈呈式～

① 各種表彰式

優良卒業児童生徒表彰 坂本 莉彩
卒業生顕彰【県高体連】 白丸 智乃祐
卒業生顕彰【県高文連】 宮崎 諒太
陽の丘顕彰【本校】
登山部（男女） 藤家 尚平 中村 宗平
中村 光志 高見 花菜 岩永 蒼士
吹奏楽部 土井 楓太 品川 稜侑

② 卒業記念品贈呈式

42回生の皆さんより、電子黒板機能付プロジェクター1台とモバイル型マグネットスクリーン1台寄贈していただきました。授業や行事等で大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

③ スクールバスの運転手さんへの花束贈呈式

3年各クラス交通委員の参加のもと、毎日お世話になった長崎バスの運転手さんに向け、卒業生を代表して3年2組坂本端伍さんがお礼の言葉を、吹田遥香さん、田島美由希さん、橋本侑青さんが花束を贈呈し、感謝を伝えました。



～第42回 卒業証書授与式～

3月1日（水）に第42回卒業証書授与式が挙行され、普通科233名、理数科39名の計272名が巣立っていきました。コロナウイルス感染拡大防止のため、卒業生、保護者、教職員の参加となりました。式では、在校生を代表して2年5組の小林史弥さんが送辞を、卒業生を代表して3年7組の菅崎未来さんが答辞を述べ、荘厳で感動的な式典となりました。卒業生の今後益々のご活躍を教職員、在校生一同願っております。



～高校入試 合格発表～

3月15日（水）、令和5年度公立高校後期入学者選抜の合格発表が行われました。前期・後期入試の合格者である計280名が本校第45回生となります。また、文理探究科1回生80名も入学します。今年から合格発表は、HP上のみになりました。入学後は、自分の目標に向かってさらに頑張ってくれるものと期待しています。



～卒業生から在校生へのメッセージ発表会～

3月15日（水）に、卒業した42回生8名から後輩に向けて進路実現に向けた熱いメッセージを送っていただきました。1・2年生は体育館で先輩の話を熱心に聴きました。ここで、8名の卒業生からのメッセージの一部を紹介します。

- ・定期試験のために数日暗記しただけの短期記憶でいると、いくら良い点数をとっても意味がない。しっかり復習をして長期記憶として確立すること。
- ・自力で理解することを怠らないこと。些細な疑問でもそのままにせず、丁寧に勉強することで知識を獲得していった。
- ・何か大事なことを考える時、常に書き残すことで、自分のやりたいことを明確に出来た。
- ・模試の見直しをすること。試験を受けて、結果を見て終わるのではなく、訂正をしっかりとすることで、自分が苦手な所も見えてくるので、そこを重点的に勉強していけば苦手を克服できた。
- ・引退してからもそれまでと生活習慣を変えず、毎朝、朝練をしていたころと同じ時間に登校して、授業が始まるまで、約1時間の自習をした。
- ・数学や理科は試験範囲の教科書の問題を何度も、とにかくたくさん解き、国語や地歴科目の暗記系は登下校の移動や隙間時間にYouTubeなどを利用して覚えた。
- ・大学の二次試験は同じ科目でも各大学で問題形式や問われる力が異なるため、第一志望校だけでなく様々な大学を調べておくことが大切。



～文化発表会 無事終了～

3月18日(土)に文化発表会を行いました各学級や有志、文化部が準備と練習を重ね、その成果を発表することができました。保護者の方や他校の生徒など沢山の方にご来場いただき、活気あふれる会になりました。

【文化発表会委員長 2年6組 今里光希くん よりメッセージ】

文化発表会を初めて開催するにあたって、分からないことや大変なことも多かったのですが、その分やりがいもあり、自主性をもって一つものを作り上げる楽しさや、クラスの友情を感じることができました。また、一般公開される行事は今までになかったので、とてもよい経験になりました。各クラス、グループの個性が出た展示や発表ができて、良かったと思います。皆さんご協力ありがとうございました。



最優秀賞

○展示・イベント部門

2-1

Someday in the cheerful

○ステージ部門

2-2

Welcome to the 2-2 world!



～令和5年度人事異動～ (この度の人事異動で、12名の先生方が退職・異動となりました。)

山口 千樹校長(退職)

濱栗 啓吾教頭(島原高校)

山崎 聡事務長(退職)

大小瀬 格二(諫早高校)

兵頭 美帆(退職)

下川 陽子(西陵高校)

松本 和枝(退職)

中村 大道(県教育センター)

山口 美登志(退職)

川口 直起(島原農業高校)

園山 晴夫(長崎南高校)

栗原 央明(平戸高校)

(敬称略)

～4月の主な行事予定～

3日(月) 新クラス発表

10日(月) 大掃除・新任式、始業式

入学式・PTA入会式・文理探究科開科式

11日(火) 校内実力試験(1年)

12日(水) PTA紙上投票

13日(木) 理数科・文理探究科対面式

13日(木)～18(火) 面談週間(個人面談)

21日(金) 歓迎遠足・歓迎式(24日 予備日)

25日(火) 校内普通科・理数科課題研究発表会(3年)

26日(水) 体力テスト・身体測定(全学年)

27日(木)～28日(金) 文理探究科宿泊研修(1年)

28日(金) PTA委員会・常任委員会



1 学年より

<普通科「総合的な探究の時間」課題研究 優秀班紹介>

普通科では、総合的な探究の時間で、地域探究をテーマに半年かけて課題研究を行いました。研究成果発表を各クラスで行い、生徒による相互評価で、以下の班が各クラスの最優秀班に選ばれました。

1 組「交通機関と観光客の数にはどのような関係があるのか」

班員 篠原芹 寺田もも 宮崎羽夏

2 組「健康寿命をのばすためには」

班員 中川誠之助 中村虎汰郎 元村奏斗 山口幸信 山下昇太

3 組「海洋ごみは長崎の海にどのような影響を与えているか」

班員 山口睦月 川崎悠生 近藤悠翔 末吉慶太 徳永詩季

4 組「スポーツをもっと身近にするためには」

班員 坂本大成 新垣勇人 陶山慶人

5 組「長崎の観光業のさらなる発展に向けて」

班員 古木啓太郎 松永淳希 中村滯香 久松希樹 吉田汐愛

6 組「究極の教育グッズをつくる」

班員 西田綾画 武田真依 松井侑太 牟田凌大 山川菜奈

《表彰の様子》



<2年生へ向けて>

44回生のみなさん、1年間おつかれさまでした。よく頑張りました。北陽台高校で過ごしたこの1年間で、自身の成長を感じることはできましたか？うまくいったことも、うまくいかなかったこともすべて肯定し、次に繋げてください。2年生へ向けて考えてほしいことや取り組んでほしいことをいくつか挙げますので、参考して春休み以降の生活を充実させてください。

①疑問をもちましょう

さまざまな物事に、疑問をもつことは重要です。なぜ？どうして？の感情が、自ら主体的に行動される原動力になると思います。疑問をもつと、その物事の背景や理由を知るきっかけとなり、自分自身の見識を広げるチャンスになると思います。

②問題（課題）を発見しましょう

ここでいう問題（課題）とは、みなさんがこれからの社会で生活する上で、解決すべき問題のことです。問題を解決する力を身につけることも大切ですが、問題意識をもち、課題を見出す力を身につけることも大切です。そのために、今のうちに、さまざまな知識を身につけ、社会の変化に興味関心を抱き、感受性を身につけてください。何事も経験です。まず、行動することから始めましょう。

③自己分析に努めましょう

高校生活をふりかえり、できたこと、できなかったことを分析しましょう。できなかったことは、割とたくさん思いつきますが、できたことはなかなか自分では思いつきません。そのときは、人に聞いてみたりなどして、小さなことでもいいので、自分の良いところを見つけましょう。

<春休みの過ごし方について>

44回生では、学習面では、例年以上に課題を精選したり、主体的に取り組めるような取組を実施してきました。生活面では、校内のルールの改定など、みなさんが学校生活を送りやすくなる変化があったと思います。これらの取組から、自分で考えてなんとかしようという意識は芽生えてきたのではないのでしょうか。その気持ちを2年生では、実際に行動に移すときです。そのためにも春休み期間の過ごし方が重要になります。新年度を気持ちよくスタートするために、自分の行動をよく考え、充実した日々を送ってください。

<2年生から8クラスになります>

次年度44回生2学年は、8クラス編制になります。具体的には、普通科文系3クラス、普通科理系4クラス、理数科1クラスです。普通科は、1クラス32～35名のクラスになります。このことで、授業をさらにきめ細やかに実施することができ、クラスの一人ひとりに目が行き届きやすくなります。また、第2多目的室を新教室として使用予定ですが、この教室のプロジェクターやスクリーンは、42回生の先輩方の卒業記念品です。多くの方々の尽力で、8クラス編成となりますので、このメリットを生かし、44回生から長崎北陽台高校を盛り上げていきましょう。

2 学年より

【普通科：課題研究成果発表会】

普通科では、地域社会の課題を見出し、その解決策を検討・具体化する課題解決学習に取り組むことで社会の仕組みに対する理解を促すとともに、思考力・判断力や協力する力などを育成することを目的として週1時間の「総合的な探究の時間」に様々な活動を行ってきました。その集大成として、去る2月27日に本校体育館において、ご指導いただいた大学・役場・企業などから多くの出席をいただき、本発表を行いました。

本発表では活動してきた47班それぞれが聴衆（1年生含む）に対して時間内に4回のプレゼンテーションを行い、質疑応答で活発な意見交換を行いました。どの班も活動の成果をよくまとめていて、見応えのある発表となっていました。終了後、すべての班の中から聴衆の投票によりポイントの上位5班が決まりました。この5班は、4月に予定されている課題研究発表会でプレゼンテーションを行う班として選出されたことになります。

※一番左が班長です

1 位 自然環境c班 「大村湾の貧酸素水塊を減らそう」

(2-1 尾川翔彩、2-2 嶋田康志郎、2-2 松本隼昇、2-4 中尾織音、2-6 柴田佳菜子)

2 位 教育b班 「SNSトラブルに巻き込まれない情報教育をしよう」

(2-2 松永大和、2-1 小形亜美、2-1 脇山爽花、2-3 馬場優人、2-5 鶴柴拓也)

3 位 観光e班 「長崎をNo.1観光県にしよう」

(2-3 高木堇、2-1 深堀圭織、2-2 西美乃里、2-4 松下悠来、2-6 今里光希)

4 位 街づくりb班 「長与町の良さをPRしよう」

(2-4 高橋颯良、2-1 浦川湘太郎、2-2 前史織、2-3 岳野雅大、2-6 野原由衣)

5 位 防災a班 「備えあれば患いなし～二次災害を防止しよう～」

(2-3 黒板海斗、2-1 篠原汰人、2-2 永尾紗、2-4 山本小桜、2-5 谷口晴應)



【理数科：科内課題研究発表会】

理数科では、学術的な体験や研究を通じて科学的な見方・考え方を身に付けさせることを目的として、大学や研究所等での研修や講義・研修旅行などを行うほか、論理的な思考力・判断力や学術的にアプローチする技能や科学的根拠を基に思考・行動しようとする態度を育成するため、班または個人で設定した課題について、週1時間の「課題研究」の時間に研究等を行ってきました。その集大成として去る3月3日に長崎大学から3名の先生をお迎えし、1・2年理数科全員が参加して課題研究発表会を行いました。発表した8班は今回気づいた課題を改善し、4月に行われる校内発表大会に臨むことになります。そして、その発表大会での上位2班は本校代表として県の理数科研究発表大会へ出場します。



【理数科：新宮高校（福岡県）との理数科研修交流】

●辻純也（2年7組担任）

2/24（金）に福岡県立新宮高校を訪問し、新宮高校理数科2年生と本校理数科2年生とで交流学习を行いました。午前中は学校紹介や交流会を通じ親睦を深めました。昼食は学校近くのビュッフェレストランで両校生徒交えて食事をしました。午後からは、まず各校の代表1グループの発表を全員で聞き、質疑応答を行いました。その後、物理・化学・生物・数学の各グループに分かれて、発表・質疑応答を行いました。

お互いの努力の成果を見ることができ、両校生徒にとって大変意義のある交流会となりました。



【カケハシ・プロジェクト】

●福田ゆり子（本校英語科教諭：引率責任者）

2月22日から2月27日までニューヨークに滞在しました。外務省が実施しているこのプロジェクトでは、個人レベルでアメリカとのつながりを強めていくだけでなく、日本の良さを発信していくことが求められています。日本企業や日本領事館、国連の訪問に加え、現地の高校生と交流しました。さらに現地高校で、日本の紹介や帰国後に実施していくアクションプランを英語で発表しました。

●石本祐介（2年7組：北陽台チームリーダー）

元々国際的な活動や平和活動に興味があり、国際協力の仕事もしてみたいと思っていたので、実際に日本の外の世界を見ることで、今後の人生に役立てたいと思い参加しました。また、日本のことが好きで、日本の魅力を海外の人に向けて発信できる良い機会だと思ったのも参加した理由の1つです。

このプロジェクトで一番印象に残っていることは、授業の活発さです。現地の学校で授業を受けたとき、生徒は挙手をして質問したり、先生が話している途中でも横入りして自分の意見を言ったり、積極的に授業に参加していました。アメリカでは個人個人がしっかり学ぼうとしていて、その結果活発な授業ができていると感じました。これは日本の授業でも大切なことだと思っているので、私たちから授業を変えていこうと努力しているところです。周りの目もあり、簡単なことではないと実感していますが、頑張りたいと思います。

今後は学んだことを学校の中で発表したり、世界に向けて日本をよりよく知ってもらえるよう SNS で発信したりしていきます。また、最初に述べたように個人的には将来 JICA などでの国際協力の仕事もしてみたいと思っているので、今回の経験を大切にしていきたいと思っています。



【学年主任より：43 回生の皆さんへ】

いよいよ 4 月からは最高学年となる皆さんへ。3 年生になるということは、長崎北陽台の良き伝統である、学習・部活動・学校行事の3つに最高のレベルで取り組む姿を下級生に見せなければならないということです。全員その覚悟をして、それなりの心構え、それなりの表情で新学期の始業式に臨んでください。

【学年主任より：保護者の皆様へ】

この1年間、保護者の皆様には本校の、そして本学年の教育活動に対してご理解ご協力をいただき誠にありがとうございました。2 学年保護者の皆様あての文書を Classi に投稿しますので、ぜひご覧ください。